



# 2017年度 天文資料

平成29年度 第12号 (3月号)

平成30年 2月24日

発行：佐世保市少年科学館

佐世保市少年科学館



## <3月は惑星がよく見える>

太陽、月の次に明るい金星が、夕方西の空に見えるようになり、いよいよ宵の明星の登場です。

また、太陽の近くにあるために、なかなか見るチャンスが少ない水星も、**3月16日が東方最大離角**※1となり、**夕方西の空で見えやすくなります**。この**金星と水星が、4日と19日に接近**して見えます。双眼鏡を使って、明るい金星を目印に、水星を見つけることができるでしょう。



探査機が撮影した金星

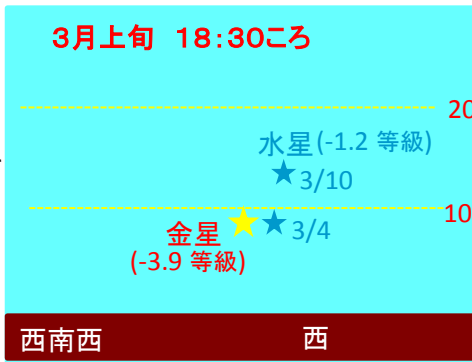
また、**明け方には南の空に、木星、火星、土星の3つの惑星を見ることができます**。中でも**火星と土星は、4月の初めには、接近**して見えます。今回は、これらの惑星の見え方についてご紹介します。

※1：地球から見た内惑星(水星と金星)が太陽の東側に最も大きく離れること。東方最大離角の時は、夕方西の空で見えやすくなる。

## <上旬と下旬は金星と水星が接近>

金星と水星が、3月上旬に接近して見えます。

**最接近は3月4日、金星のすぐ右隣に水星**が並びます。金星の右隣を双眼鏡で見ると、水星を見つけることができるでしょう。ただ、日没直後でも、2つの惑星の高度が10°未満なので、**西の空がよく見える場所**で観察する必要があります。4日以降は、水星



は金星の上の方に離れていきますが、太陽から離れるため見えやすくなり、**16日に東方最大離角**となります。そして**20日頃には、再び金星の右横に並び**ます。**20日には金星の上の方に細い月**が並び、華やかな夕空になります。

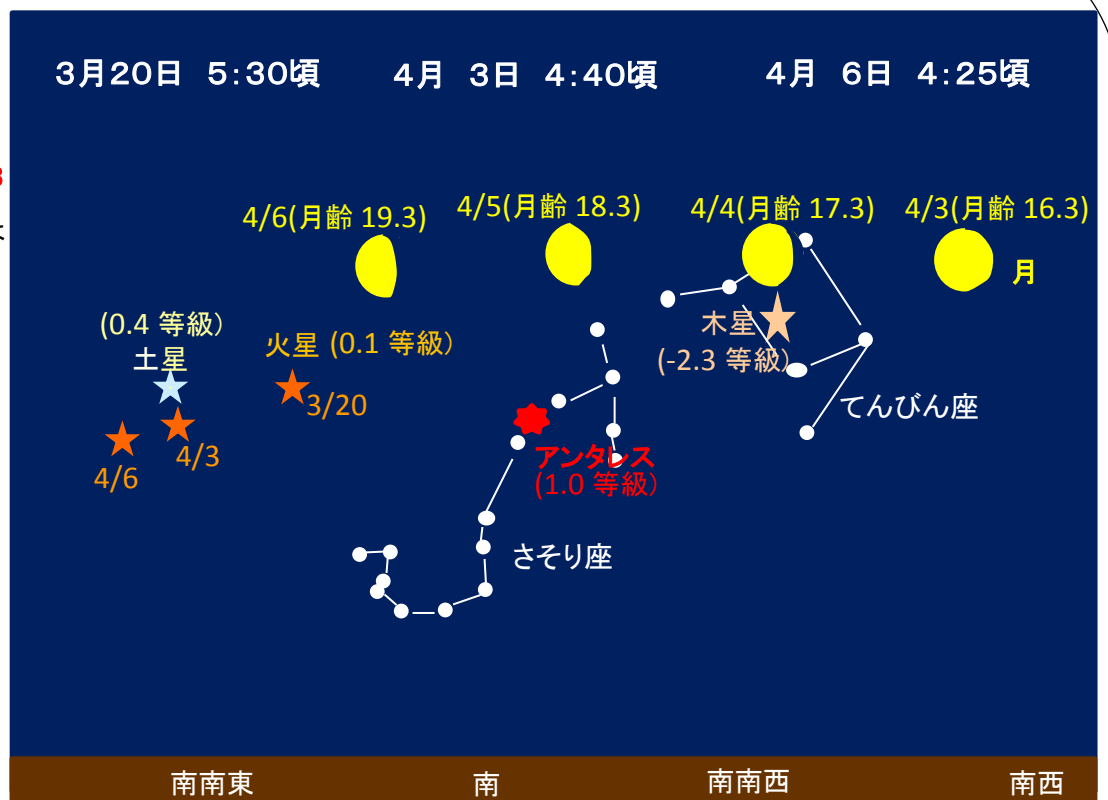
## <3月下旬～4月上旬は明け方に3つの惑星が見られる>

3月下旬から4月上旬にかけて

明け方南の空に**木星、火星、土星**と3つの惑星を見ることができます。

**木星**はてんびん座の中にあり、**-2.3等級**で明るく輝いています。木星の東よりやや斜め下にはさそり座の1等星**アンタレス**があり、さらに東のいて座には、**土星**があります。

火星は、3月下旬には**アンタレスと土星の間**やや土星寄りであり、明るさも約**0.1等級**に上がっています。このあと、火星は少しずつ東へ移動し、**来月3日には土星のすぐ下**に並びます。しかし、この日は**木星の西側には満月過ぎの大きな月**が出ているので、写真撮影には**厳しい条件**です。



その後、火星は土星の東の方へ移動していきますが、同時に月も東へ移動し、**4月8日に土星と火星に最も近づ**きます。